


**本会記事**
**■広報委員会だより**  
**第11回「おもしろ科学教室」(名古屋大学)**  
**での出展**

平成31年1月14日(月)名古屋大学において小学生を対象とした「おもしろ科学教室」が開催されました。このイベントは、本学会を含む7つの学会、大学及び、協会等、あわせて11団体が共催の形で毎年実施しており、今年で11回目を迎えました。各団体がそれぞれの分野を子どもたちにわかりやすく伝えられるように工夫を凝らした講演会、工作教室、ブース展示を行いました。当日は、約400人の親子連れが来場し、子どもたちは講演を聞いたり、科学工作をしたりする合間に、興味をもった展示ブースに立ち寄って、楽しんでいました。発電競争(電気学会東海支部)などの体験型の展示もあり、賑わっていました。

本学会では、プラズマと核融合に関連した科学技術を紹介、体験するブースとして、ダイヤモンド片の熱伝導率の高さを体験する「人工ダイヤモンド氷カッター」、電子レンジ等を用いた「プラズマ放電実験」、超伝導体を使った「磁気浮上列車」の展示を行い、プラズマおよび核融合についてのクイズコーナーやパンフレットの配布も行いました。ITER装置のペーパークラフトも配布しましたので、それを作ったり飾ったりするときに少しでも核融合炉について思っていただけなのではと思います。

当展示を見に来てくれた子どもたちは、ダイヤモンド片を氷に当て、氷に吸い込まれるように切れ込みが入っていく感触を楽しんでおりました。また、プラズマボールの揺らめく光に興味深げに近寄って、おそろおそろ手に触れては、光の筋が集まってくる様子を楽しんでいました。電子レンジでの放電実験では、ガス封入管が中の気体によって異なる色で発光する様子を熱心に観ていました。磁気浮上列車では、永久磁石でできたレールに沿って素早く走る列車を目にした子どもたちが集まってきました。隙間を開けて浮き上がっている列車を観て、「磁石の反発で浮いているんだ」など自らの考えを声にする子どもたちもみられ、列車が逆さまになっても落ちないのを見て驚き、不思議がっていました。周囲の大人たちは、つぎつぎと質問をする子どもたちの様子を頼もしそうに眺め、また感心していました。

2020年から「プログラミング」が小学校で必修化されるということです。これはプログラミングの技術を教えるのではなく、取り組みを通して「考えるきっかけ」を提供するということと理解しています。このような展示を通して、まずは不思議だなと興味を持って、子どもたちがいろいろと考えるきっかけにしていきたいと思えます。

本イベントには、広報委員会から吉沼幹朗(核融合研)、大野哲靖(名大)、下妻隆(核融合研)、田中宏彦(名大)、中村圭二(中部大)、久保博孝(量研)と事務局から杉山恵子、石山千晶が参加しました。このように、広報委員会では、広く社会に向けた情報発信をめざし活動を行っています。広報活動に関するご意見等がございましたら、ぜひ委員会までお寄せください。

今回の出展にあたり、愛知工業大学高井吉明先生はじめ実行スタッフの方々には大変お世話になりました。また、展示物については、核融合科学研究所様及び量子科学技術研究開発機構様よりご提供いただきました。ご協力に感謝申し上げます。

(広報委員会)



クイズに挑戦！プラズマってなんだろう？



氷にダイヤモンド片を当てると、みるみる食い込んでいく！